



果樹課 栗谷 全



早期摘果で 大玉促進と樹勢維持をしましょう

■果実肥大

りんごの果実肥大は開花後約1か月の間は細胞数の増加、その後収穫期までは細胞の肥大により起こります。

このため開花後1か月の間に果実への養分分配量が少なかったり天候不順で細胞分裂が抑制されると、果実の細胞数が少なくなり小玉果となります。

早期摘果で果実の養分競合を減少させ、細胞分裂を活発にすることが大玉生産につながります。

摘果が遅れると小玉になるだけでなく翌年の花芽形成にも影響しますので、適正な着果量になるように早期に作業を進めましょう。

■満開後30日まで粗摘果を実施

●作業が遅れそうな場合は摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）を散布する方法もあります。気温が高い日の午前中にたっぷり散布するのが効果的です。摘果剤の効果は散布後10〜14日で現れます。効果が出てから仕上げ摘果を行うようにしましょう。

●中心果を残し、果実の肥大が劣り障害も多くなる側果を落とします（原則的には中心果を残しますが、果形や肥大が明らかに劣る場合には側果を残すようにします）。

■落花後25日頃まで仕上げ摘果を実施

●摘果量は別表[※]の通りで、「ふじ」の場合4〜5頂芽に1果の割合とします。着果数は、樹勢が弱い樹には少なく、樹勢が強い樹には多くし、樹勢を安定させましょう。

●「つがる」は他の品種に比べて早期落果の危険が高いため、早めに摘果を終えてください。また、「ふじ」は隔年結果を起こしやすい品種なので、摘果の遅れや過着果のないようにしてください。

●正常果を残し、変形果・奇形果等を摘果していきます。
●残す果実と果実の間隔は20cm程度（おおよそ摘果バサミ1丁分）を目安とします。

りんごの果そう



※別表

着果基準	品 種
3〜4頂芽1果	つがる、王林、など
4〜5頂芽1果	ふじ、など

◇お問い合わせ◇

果樹課 0182-2316266